

財政学総論試験問題

2000.2.4

1. 次の用語を簡単に説明しなさい。(30点)

- (1) 価値財
- (2) 包括的所得税
- (3) リンダール・モデル
- (4) 予算の単年度主義の例外
- (5) ゼロベース予算
- (6) ワグナー法則
- (7) 実効税率, 限界税率
- (8) スミスの租税4原則
- (9) 租税支出
- (10) ドールトンの法則

2. 利潤のうち, $(0 < \alpha < 1)$ の割合を1人の株主に配当として支払う法人を考える。インピュテーション方式と(支払配当がすべて法人税の課税ベースから除外される)支払配当控除方式とでは, 法人と株主の税負担の合計は同じになることを証明しなさい。ただし, 法人税率は単一税率とする。(15点)

3. 税額控除法の付加価値税について, 商品の課税後の価格は, その商品に適用される最終税率によって決まることを証明しなさい。(15点)

4. 財政の意思決定における私益説と公益説の代表例を紹介し, それぞれが現実の予算編成をどれだけ説明できるかを述べなさい。また, その説明を踏まえた上で, ありうべき予算改革の方法について具体的に述べなさい。(40点)

5. 授業の感想を述べて下さい。良かった点, 改善を要する点を具体的に指摘して下さい。